

# アダンの実の話

昔、神里村に一人のノロがおった。このノロには兄がいて兄妹仲良く暮らしていたそうだ。



ある夏、この妹のノロがおなかに赤ちゃんができたので、兄にアダンの実が食べたいといったそうだ。しかし、結婚を許されていなかったノロに赤ちゃんができたので兄は驚き、そして怒り、その実を妹にあげなかった。

どうしても、アダンの実が食べたい妹は、もう一度兄に頼んだ。兄は怒って、妹にあげずに他の人々にあげてしまったそうだ。



兄の仕打ちに怒った妹は、「なんでケチケチしてアダンの実をくれないの。わたしの呪いでアダンの実ができないようにしてやる。わたしの呪いは深いから、これからずっとアダンの実は、できないだろうよ」といった。

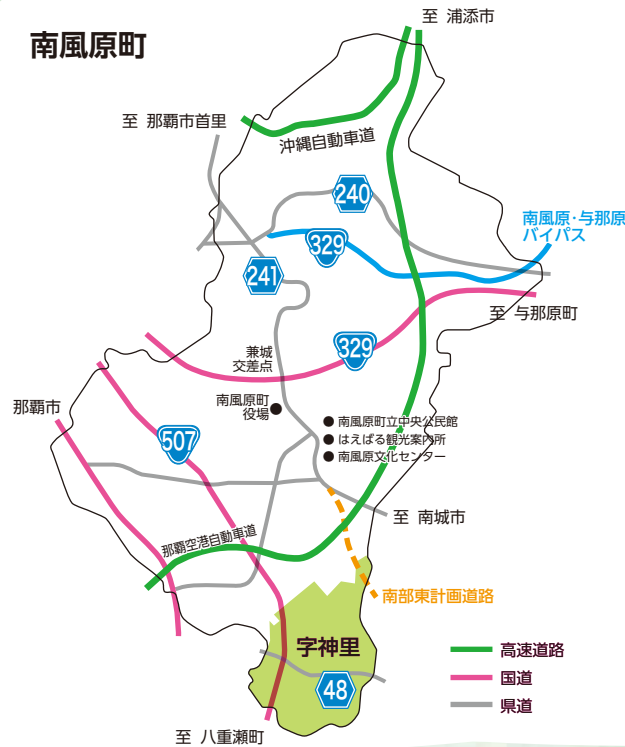
その後、その地にはおびただしいアダンの木はあるが、実を結ぶものはなかった。

(1745年王府編纂の『遺老説伝』より)

(南風原文化センター学芸員実習生)

# 神里プロフィール

人口(男)…452人 世帯数…358世帯  
 (女)…409人 面積…76.7ヘクタール  
 合計…861人 (令和4年1月現在)



## うちいではわくのしつらいがふし訳

おもろ音揚がり宣るむ音揚がりは、お祈りします。首里杜にまします尚真王様は、立派なかたである。国の中心の神里の下司たちが信頼し敬愛する按司様であることよ。

作成：南風原平和ガイドの会(2010年度)  
 発行・改訂：一般社団法人南風原町観光協会(2021年度)  
 住所：沖縄県島尻郡南風原町字本部158番地  
 電話：098-851-7273 FAX：098-851-7109  
 メール：chiiki-machidukuri@haebaru-kankou.jp  
 HP：https://www.haebaru-kankou.jp/



いにしえの郷愁を誘う里

# 神 かもざと 里



うちいではわくのしつらいがふし  
 一 おもろねやがりや  
 せるむねやがりや  
 げすのうれしかなしてだ  
 又しよりもりちよわる  
 又 おぎやかもいかなし  
 又しまなかの かもざと  
 「おもろさうし」第八卷412の20  
 外間守善 校注

高屋之殿への古道

一般社団法人南風原町観光協会



## 神里カンサー(松又根ケイ)

神里  
気質



改善センターの緞帳

神里の人は松ぼっくりのように(カンサーを松の幹にできた凹凸だという人もいる)かさかさとおっさりした性格で松の木の根っこのように頑固で意思が固い。外部に対しては堅く殻を閉ざすが、内部では団結する字の気風を示しています。

## 神里のカー(井戸)拝み

神里では昔から多くの井戸を大切にしてきました。今でも拝まれています。

- ・世理の神屋(屋敷の井戸)
- ・新屋の神屋(屋敷の井戸)
- ・仲門の隣のシーシガー
- ・田本の神屋、隣の井戸
- ・ウブガー(フスミーガー)
- ・トゥヌガー(トゥンの側)
- ・イルジガー(道路に埋まっている)
- ・ヌールガー
- ・ダキドゥンガー
- ・ミートゥッガー a
- ・ミートゥッガー b
- ・ダキグサイガー
- ・トゥンチガー
- ・ウビーガー
- ・リンドーガー
- ・アブガー



## シーサー



神里の獅子舞は旧盆と十五夜に獅子舞の奉納(シーサーケーラシー)が行われる。

奉納は5カ所の宗家を拝んで、上ノ口殿内で子供達と戯れる特色ある行事である。

1948(昭和23)年に戦後初代の獅子が作られ1976(昭和51)年に2代目に引き継がれた。1997(平成9)年には3代目のシーサー新旧交替式が行われた。

地区の繁栄に繋がるものとする尊い願いが込められている。神里区の伝統文化として継承され、子供から大人まで地域の人にとって身近な行事である。

神里の獅子は額に「月」が描かれた雌で、本部と雌雄一対と言われている。

## エイサー



神里エイサーは1985(昭和60)年に玉城村奥武に指導を受け始めました。現在は旧盆のウークイに4ヶ所で道ジュネー(村廻り)をして、盆踊りの際にナカミチで踊っています。旗頭を先頭に大太鼓、パーランクー、滑稽踊、女踊りで構成されている。

## 舞方棒



神里の舞方棒は、慶事には幕開けとして演じられる。

1990(平成2)年6月に南風原町の無形民俗文化財に指定される。



## 8 ナカシモー

かつては木が生い茂り、子供たちが木登りをして遊びました。

列車爆発事故の現場からは1Kmも離れていますがこちらまで爆発物が飛んできました。

ガジュマルが2017(平成29)年名木百選に認定。



## 7 イーマヌトウン(上間之殿)

トゥヌグゥーとも呼ばれ世理の管理です。祭事に六月ウマチーがあります。



## 6 ウィーヌドウンチ(上ノロ殿内)

お宮とも呼ばれ、集落の北側にあります。

1959(昭和34)年、茅葺から石積み、さらに1978(昭和53)年、石積みからコンクリート造りへと改築されました。管理は隣りの野呂殿内が行っています。

ノロ火又神が置かれています。



## 9 赤がわら屋根の民家

1957(昭和32)年の建築物。赤がわら屋根の建物では神里で最も古い建物です。



## 10 シーサーウクイモー

1948(昭和23)年に戦後初代の獅子が作られ、1976(昭和51)年にウガンモーを運動公園に造成した記念に2代目を作った。

1997(平成9)年に3代目に当たるシーサーと2代目の新旧交替式が行われた。シーサーウクイモーで新しい獅子は古い獅子の生まれ変わりなので、古い獅子は勢いよく燃やされた。



## 1 公民館(サーターヤー跡)

「公民館」または「改善センター」と呼ばれていますが正式名称は「神里構造改善センター」です。

1989(平成元年)年に昔のサーターヤー跡に新築しました。



## 2 皇紀2600年の石敢營

1940(昭和15)年に皇紀2600年を記念して造られました。



**沖縄県鉄道(軽便鉄道)糸満線の爆発事故**  
1944(昭和19)年12月11日、神里集落の東側を通りかかった軽便鉄道糸満線が、突然爆発。兵隊や軍事物資、さらに女学生達も乗車していた。合計約200人が亡くなるという国軍創設以来の大惨事。当時笛口令が敷かれ、神里にも大きな被害を及ぼした。



那覇市歴史博物館提供

## 5 ウガンモー(神里之嶽) 神里ふれあい公園

聖地「神里之嶽」がある。「琉球国由来記」に記されている拝所のひとつ。

現在は「神里ふれあい公園」と姿をかえ町民のいこいの広場になっています。



## 4 タカヤヌトウン(高屋之殿)

『琉球国由来記』に記されている拝所のひとつ。中山(中城)と北山(今帰仁)へのウトゥーシ(遥拝所)として重要な場所です。

1942(昭和17)年に上間之殿、中之殿と同様に合祀され、その後、1993(平成5)年に元の位置(現位置)に戻されました。田本の管理です。



## 3 ナカヌトウン(中之殿)

『琉球国由来記』に記されている拝所のひとつ。1942(昭和17)年、上ノロ殿内に移され合祀されたが1993(平成5)年に元の位置(現位置)に戻された経緯があります。新屋の管理です。

